

NGO「経験生かしたい」

スマトラ島沖地震の被災者を救援するため、阪神大震災の被災地、神戸の団体など日本の非政府組織（NGO）は27日、現地へのスタッフ派遣や支援物資の配布準備など活動を本格化させた。

神戸市に本拠を置く「アジアアフリカ環境協力センター」は、インドネシア、スリランカ、タイ、マレーシアの各国に毛布計600枚を送る準備を始めた。インドやミャンマーなども支援する方針で、瓜谷幸孝理事長（57）は「震災時は各国から義援金などの支援を受けた。恩返ししたい」。

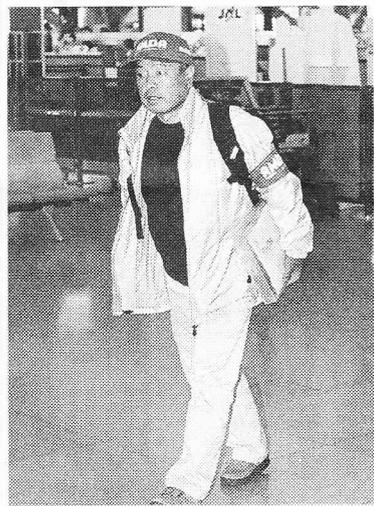
被災地の復興支援に取り組む「CODEE海外災害援助市民センター」（神戸市）はスタッフの現地派遣を決定。海外NGOとも連携して情報を集め、支援先を検討している。村井雅清理事（54）は「被災地域が広いが、支援の届きにくい地域を助げたい」と話した。

途上国への農林業の技術支援などを続けている「日本国際民間協力会（NICCO）」（本部・京都市中京区）は、スタッフ2人をスリランカに派遣することを決めた。食糧や水、医療品などの生活必需品を被災者に配る。必要な場合は医師の派遣も検討する。同会（075・241・0681）へ。

途上国の子らを支援する「日本フォスター・プラン協会」（東京）は、スリランカのハンパント

り、問い合わせは同会（075・241・0681）へ。

アムダ、医療支援に出発



国際医療NPO「AMDA（アムダ）」（岡山市）の職員、諏原日出夫さん（58）＝同市横井上＝

地震で被害を受けたスマトラ島に出発するAMDAの諏原日出夫さん（27日午後1時55分、関西空港で

27日午後、関西空港を出発した。ジャカルタでAMDAインドネシア支部派遣の医師3人と合流し、3千人の犠牲者が出たというスマトラ島北部のナングロアチェ州で、医療支援に必要な物品の手配などに当たる。

同空港で諏原さんは「現地の状況は詳しくわからないが、病院に運ばれた重傷者以外にも治療を必要としている人はいるはず。そういった人に支援の手を差し伸べたい」と話した。諏原さんは新潟県中越地震でも約1カ月間現地入りした。AMDAは支援金を募

「恩返し」救援本格化

※

っている。郵便振替口座は01250・2・40709（口座名はAMDA、通信欄には「スマトラ沖地震・津波」と記入）。